

巻頭言：芸術のまちで育む学びと音楽：学生と共に歩む図書館として・・・・・・・・・・	1
特集：「横浜市中心図書館再整備（リニューアル）」・・・・・・・・・・	2
連載：わたしのイチオシ ウィリング横浜 情報資料室 「福祉保健の専門図書館～よりそう図書館 ひろがる福祉～」・・・・・・・・・・	4

芸術のまちで育む学びと音楽：学生と共に歩む図書館として

昭和音楽大学附属図書館 館長 酒巻 和子

初めまして。2025 年 2 月に神奈川県図書館協会に加盟させていただいた昭和音楽大学附属図書館です。どうぞよろしくお願いいたします。

昭和音楽大学は川崎市麻生区に位置し、小田急線「新百合ヶ丘」を最寄り駅としています。大学、大学院、短期大学部を併設し、共用の図書館は教育研究と学修支援を役割の基本としています。

所蔵資料の中心は、音楽・芸術に関する多様な専門分野に関して大学の変化とバランスに配慮しながら収集してきたものです。近年はオンラインデータベースの契約も増え、電子版の音楽事典や楽譜、演奏音源や映像、海外の学位論文や学術雑誌等に対して、学生・教職員は学外からもアクセス可能です。

一方で、実際に図書館で過ごす時間も貴重です。ラーニングコモンズやグループエリア等の設備とその利用法は、ニーズに応じて改善してきました。図書館職員は利用しやすく親しみやすい図書館を目指し、季節のイベントを企画したり著作権講座等も実施しています。新入生に向けて OPAC の使い方等の動画を配信し、教職員を含むその他希望者にも予約制の「図書館ツアー」によって図書館をよりよく知って活用してもらう機会を設けています。

また大学院の学生をアルバイトスタッフとして雇用し、図書館業務に参加してもらっています。TA と並ぶ学生支援ですが、学修支援でもあり、時にはレファレンスの補佐役として後輩学生のよき相談相手にもなっています。2021 年度からさらに「ライブラリー・サポーター制度」を導入しました。こちらは大学・短大生を対象とした原則 1 カ月の短期アルバイトです。

これを経て、年間契約のアルバイトにステップアップする学生もいます。学生ならではの視点やアイデアを提供しながら、特に本学の「司書課程」を履修する学生にとっての実践の場となっています。

社会に向けた大学の教育研究成果の発信としては、機関リポジトリを整備し、図書委員会を編集委員会とする『研究紀要』や博士論文の公開を行っています。学内外の利用に供するための本学所蔵の写真コレクションや特別（アーカイブ）資料の電子化も継続中です。

新たな課題と取り組む毎日ですが、神奈川県という地域の連携の輪に加えていただけたことはありがたいと、この機会によりよい図書館をめざしたいと考えています。

特集：「横浜市中心図書館再整備（リニューアル）」

1. のげやまインクルーシブ構想

令和6(2024)年1月に、横浜市は「のげやまインクルーシブ構想」を発表しました。横浜市中心図書館がある野毛山地区は、古くから動物園や公園などがあり、都心臨海部に隣接しながら、下町の雰囲気の色濃く残し、永く市民に愛されてきた地区です。

エリアコンセプトとして「誰もが学び、楽しみ、交流し、理解しあえるインクルーシブなまちづくり」を掲げ、障害児者支援拠点を新規整備(令和10年度開所予定)し、すでに野毛山地区にある野毛山動物園(昭和26年開園)、野毛山公園(大正15年開園)と中央図書館はリニューアルすることになりました。

本稿では一部リニューアルが完了した「のげやま子ども図書館」の整備について説明させていただきます。

2. のげやま子ども図書館

中央図書館は地上5階・地下3階で、5～3階は調査研究を主とした資料を提供し、2階は事務フロア1階は「小説と暮らしのコーナー」として主に日本の小説、文庫本、ティーンズコーナーや児童書、読書バリアフリーコーナーを設置しています。地下1階は「交流と学びのフロア」で、グループで利用できるスペースを設けています。この中央図書館の1階部分を「のげやま子ども図書館」として、北側部分を「おやこフロア」とし、本館部分を「こどもフロア」としてリニューアルする計画を立てています。

計画のスケジュールは以下の通りです。

令和6年度 おやこフロア 実施設計・工事

こどもフロア 基本設計

令和7年度 おやこフロア オープン(4月22日)

こどもフロア 実施設計

令和8年度 こどもフロア 工事

令和9年度 こどもフロア オープン(予定)

3. おやこフロア

令和7年4月22日にオープンしたおやこフロアのコンセプトは未就学のお子さんと保護者のための「絵本とはじめて出会う場所」です。おやこフロアにある蔵書は基本的に本館でも所蔵しているもので、ロングセラーの絵本がメインとなっています。

開館当初は1,800冊程度の蔵書数でしたが、利用が多いため開館直後から蔵書を増やし、現在は3,200冊程度となりました。絵本だけでなく、保護者向けの子育てのヒントとなるような資料、幼児向けの図鑑なども揃えています。

設備としては、主に赤ちゃんエリア・幼児エリア・飲食エリアの3つになだらかに分かれており、赤ちゃんエリアや幼児エリアではこどもが靴を脱いで自由に過ごすことができます。ベビーカーや車いすでそのまま入ることができるよう設計がされています。



幼児エリアには隠れ家のような三角テントがあり、(写真上)、大きな西向きの窓からは陽射しが差し込んで室内を明るくしてくれます。また、AIがぴったりの絵本を選んでくれる「ぴたりえ」もあり、選んでもらった本はカウンターの司書が探して提供しています。また、飲食エリア(写真下・奥は赤ちゃんエリア)では持ち込んだ離乳食や軽食を食べることもでき、飲料や液体ミルク、紙おむつの自動販売機もあります。そのほかにもカームダウンスペースとしても使用できる授乳室、おやこトイレなども設置しています。



中央図書館本館のサービスと異なる点も多く、試行錯誤を重ねていますが、ようやく一定の方向が見えてきました。

休日は家族全員で来館し、保護者が子どもに読み聞かせをしたり、一緒に寝転んだり、リラックスして思い思いの過ごし方をしています。野毛山動物園帰りの利用も多く、野毛山地区の盛り上げにもつながっています。平日は幼稚園帰りの時間帯に利用者が集中する傾向にあります。

イベントとしては、0～2才を対象とした「おひぎにだっこのおはなし会」を月3回開催しています。今までは本館のおはなしの部屋で行っていましたが、おやこフロアで実施するようになりました。ボランティアが担当する回と職員が担当する回がありますが、毎回盛況で、わらべうたと絵本の読み聞かせを親子で楽しんでいます。また、地域子育て支援拠点と連携し、横浜子育てパートナーによる育児相談の日を設けています。おやこフロアでは、絵本との出会いだけでなく、子育てに悩む保護者を支援する機会も提供したいと考えています。



新たなサービスを展開する中で、今後の運営の参考にするために7月に利用者アンケートを実施しました。満足度 96.2%と多くの方にご満足いただけているということが分かりました。特に「未就学児と保護者のみ入れることで、安心して利用できる」という安心感、「広くて綺麗で過ごしやすい」「飲食エリアがあるのは助かる」等の充実した設備の満足度が高い結果となりました。カウンターでの対応をよかった点として回答してくださる利用者も多くいました。フロアには司書が常駐し、絵本の探し方や子どもの読書のお悩みなど気軽にご相談いただけるようにしています。

『横浜市図書館ビジョン(令和6年3月策定)』では、「未来を担う子どもたちのための図書館」を基本

方針に掲げ、図書館が子どもたちの「知りたい」「創りたい」を引き出すわくわくする場となること、地域の子育て関連施設など地域とのつながりの中で子育てを支援することをこれからの図書館のあり方の一つとしています。おやこフロアで、この基本方針を実現できるよう取り組んでいきたいと思っています。

4. 中央図書館のこれまでとこれから

中央図書館の開館は平成6(1994)年、開館と同時に 15 館あった地域図書館と図書館情報システムをネットワークで繋ぎ、図書館資料をどこで借りてどこで返してもよいというシステムに変更しました。

その後2館の地域図書館の開館を経て、中央図書館は昨年開館 30 周年を迎えました。所蔵冊数は1,773,130 冊と開館時の約 2.6 倍になり、開館時にはなかったインターネット予約や電子書籍の導入、図書取次所の開設などの様々なサービスを展開してきました。

一方、施設は老朽化が進み、空調の修繕や書架の増設などは進めているものの、大規模な修繕までは手が回らない状態でした。今回のリニューアルは、開館して初めての大規模工事となります。

こどもフロアの実施設計は今後進めていきますが、本棚に囲まれて落ち着いて読書ができた、寝そべったり動き回ったり自由に過ごすことができる設備を検討しています(写真下)。



こどもフロアを整備するにあたり、現在1階フロアにある資料の一部を7年度内に地下1階に移動させ、8年度には1階部分の工事を行います。また、地下1階のみならず、中央図書館全体のリニューアルも検討予定です。

リニューアル計画も途中でまだ決まっていないこともたくさんありますが、30 年ぶりの大きな変化を楽しみつつ乗り切っていきたいと思っています。

新しくなる横浜市中央図書館にご期待ください。

(横浜市中央図書館 伊藤恵理・琴寄紀子)

福祉保健研修交流センターウィリング横浜は、横浜市社会福祉協議会が横浜市から受託している指定管理施設です。

ウィリング横浜では、今回ご紹介する「福祉保健の専門図書館」である『情報資料室』のほか、研修室の貸出、福祉保健従事者を対象とした研修等を実施しています。

情報資料室の利用対象者は、福祉保健従事者・関係者、またはそれらに関心のある方々で、福祉保健の仕事に従事されていない一般の方々でもご利用いただくことができます。

蔵書については、福祉保健従事者向けには「社会福祉」「高齢者福祉」「障害者福祉」「地域福祉」「子ども家庭福祉」「福祉政策・行政・財政」「社会学」「心理学」「精神医学」「精神保健」…などの様々なテーマの図書・雑誌等を取り扱っています。

たとえば、地域福祉の区分の中には、「地域援助技術(コミュニティワーク等)」、「地域包括ケアシステム」「福祉のまちづくり」「ボランティア」に関する図書・雑誌が分類されます。福祉のまちづくりには、バリアフリーやユニバーサルデザインに関する本なども含まれています。

一般の方向けには、理解しやすいマンガやエッセイ、視聴覚資料(DVD など)の他、福祉保健関係の資格取得に関連するテキストなども取り揃えており、気軽に「福祉保健の世界」に触れていただけるレイアウトや雰囲気づくりも心掛けています。



また、より多くの皆さんに情報資料室をご利用いただくために、年に3回程度「企画展」を開催しています。

企画展の内容は様々ですが、そのうちの多くはウィリング横浜が行う研修のテーマに沿って開催しました。

企画展「食と栄養」
(令和7年8月)



過去には「こころの疲れをかんじたときに開く本」と題した企画展を実施しました。

「自分を大切にする」「環境を見直す」「コミュニケーション」をテーマに、メンタルヘルス、ストレスマネジメント、セルフケア/ラインケア、アサーティブコミュニケーションなどに関する図書・雑誌等を展示しています。

なお、選書にあたり、他団体のカウンセラーの方にもご協力いただき、福祉保健従事者のみだけでなく、一般の方々にもより広く手に取っていただきやすい本も選ぶように工夫し、結果として、多くの皆さまに来室いただきました。

情報資料室は専門職の学びの場であると同時に、誰もが福祉保健に関する知識や気づきに会える場です。これからも、ひとりひとりの「知りたい」「支えたい」に寄り添い続け、福祉保健の理解とつながりを広げていきます。



(ウィリング横浜情報資料室 勝又 雄)

＝お詫び＝

協会報 No. 291 号の2ページ左12行目に脱字がありました。正しくは「その他報告事項として、令和7、8年度委員会」です。訂正してお詫びいたします。HPの協会報は修正済みです。